

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	ドイツ語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		0218		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		創造工学科（機械コース）		対象学年	5		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		ドイツ語の時間〈ときめきミュンヘン〉 コミュニカティブ版					
担当教員		佐藤 伸浩					
到達目標							
4年生で網羅出来なかった初級文法のうち、比較表現、再帰動詞、再帰代名詞、受動態、接続法などの理解を深める。初級文法が終わったら、自ら辞書を引き、初歩の文字テキストの読解にチャレンジできることを目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		文法の知識に基づいて辞書を引き、適切な意味を見つける事ができる。		辞書は引くが、見出し語となるはずの語形を正しく導けず、語彙が発見できない。		辞書を引く意欲がない。	
評価項目2		下調べの段階で歯ごたえのある文章としっかり格闘する熱意があり、予習で解決出来なかったことを授業での学習体験を、自力解決の体験とほぼ同じ質にまで高められる。		一応辞書は引くが、辞書上の意味でストップし、テキストでの意味ないように踏み込むところまで進めない。		テキストとの格闘に意義を見出せない。	
評価項目3		耳で聞く努力が出来、文字テキストに食らいついていこうとする意欲がある。		文字テキストにあまり意義を感じない。		文章への関心がほとんどゼロに近い。	
学科の到達目標項目との関係							
(F) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。							
教育方法等							
概要		初級文法の残りを仕上げる。平易な文字テキストを講読する。					
授業の進め方・方法		文法説明、語彙説明をもとに文例の音読、和訳、さらに練習問題と進める。授業の最後に毎回、文法についての暗唱試験、初級文法が終わった後は授業で扱うテキストから、ある程度まとまった文の暗唱試験を実施する。					
注意点		・前期開講のクラスと後期開講のクラスがあるが、毎回の授業内容については前期のみ記す。後期開講のクラスも前期開講のクラスに準ずる。 ・学修単位の授業なので、初級文法終了後はテキストの下調べをした上で授業に臨む事を求める。 ・口頭での暗唱試験は1回2点満点とし、滞り無く言えれば2点、滞ったり、教員のヒント、手助けがあって出来た場合1点、ヒントがあっても出来なかった場合は0点。なお、口頭試験の結果に納得出来ない場合は何度でもやり直しを認める。 ・期末試験2回分に50%、暗唱試験に20%、レポートに10%、授業での担当箇所の発表の評価に20%を配分して最終評価とし、60%以上を合格とする。 参考書：中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著：改訂版 必携ドイツ文法総まとめ、白水社					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3		
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3		
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3		
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3		
評価割合							

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	0	0	10	100
基礎的能力	70	20	0	0	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0